

La formation de la pédagogie.

Bonjour! カメルーンからでまちです。最近すれ違い際に「こんにちは!」と挨拶してもらうことが増えました。学校で関わっている子どもたちだけでなく、私の前に活動していた先輩隊員から学んだ高校生や大人の方からも挨拶をしてもらっています。目に見えないカタチで、私たち日本人がここにいた、という事実を実感しています。

いつか私が離任したあと、取り組んできた何か誰かの役に立つことを願いつつ、残りの活動も引き続き懸命に取り組んでいこうと思います。

◇学期末は研修シーズン。

カメルーンの3学期は4,5月の約2か月で終わります。あっという間に日々が過ぎ去っていく中、先生たちはテストや成績付けなど学校内の仕事と並行して、研修に参加します。1日で終わるものもありますが、学期末は1週間続けて参加することが多いです。この場合、低学年(1,2年)だけ、中学年(3,4年)だけ…と参加する教員が指定されることが多く、他の教員は学校で通常通りの業務にあたります。今は高学年(5,6年)の研修が行われています。

この時、子どもたちの対応も学校によって様々です。担任が研修でいないので、その学年だけ休校にする場合が多いですが、他の担任が手分けしてその学年の授業をすることもあります。



左の教室は1年生、右の教室は5年生です。高学年の研修中、この学校では5年生は1週間お休みなので、ドアが閉め切られています。

◇カメルーンの研修あるある。

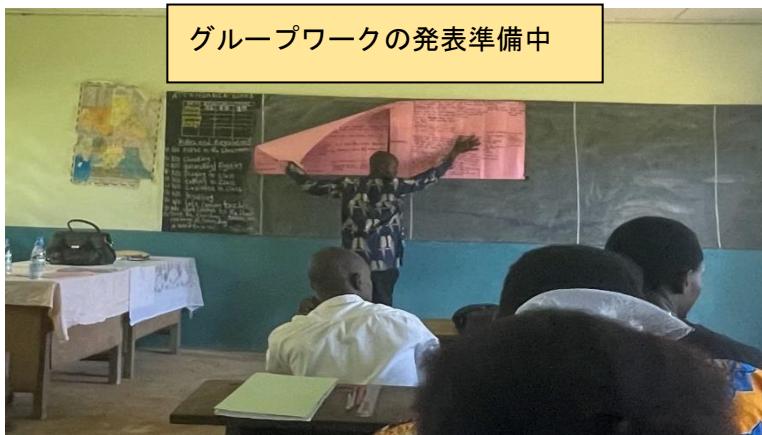
研修は、省庁からの指示で実施されることもあれば、県の教育事務所主催で行われることもあります。前者の場合、省庁からスタッフや来客がやってくるため、早朝からマイクやスピーカーなどを設置したり、前面に配置する机に白布をかけたりします。前日から子どもたちと一緒に会場を準備することもあります。



研修の内容は多様で、私がこれまで参加したものでは、コロナ対策、ICTの活用、子どもの評価方法、共生社会について、絵を使った英語指導法、子どもたちの健康を守る…などがありました。そんな研修の様子を、私が衝撃を受けた点も含めながら紹介します。

①開始時

研修の開始時には、サイレンが鳴ります。夏の甲子園でプレーボールがかかる際に流れるサイレン『ウー…』とほぼ同じものでした。今から野球の試合が始まるのか、と錯覚したほど似ています。このサイレンは、研修だけでなくイベントの開始時にも流れていることもあり、何かの開始を暗示しているものなのかもしれません。その後、国歌を歌います。カメルーンはフランス語と英語の2つの公用語があるので、その日の内容によってどちらを歌うかが決まります（だいたいフランス語）。国歌の後は教員の歌というものがあり、みんなで手をつないで歌います。歌は研修後にも歌います。授業の切り替えでも子どもたちが歌うように、歌は切り替えのよい合図になっているようです。



②研修中

講演を聞くこともあれば、テーマに沿ってグループに分かれ、模造紙に意見をまとめて発表することもあります。1週間続く研修ではグループワークが多めです。自分の意見を伝える参加者が多いので、活発に意見を出しあっています。

驚くべきは、休憩時間がないことです。長い時は約6時間続けられ、その間休憩はなく、ご飯を食べる時間ありません。休憩したい人は各自会場を出て、外で一休みしたり、軽食をとったりしています。なぜ休憩がないのかを参加者に聞くと、「研修中は業務時間だから、休憩はいらない」「学びの時間なので問題ない」という答えが返ってきました。ちなみにこれには地域差があるそうです。

正直、私は小休止を挟むほうが最後まで集中が持続すると思います。研修のスピーカーとして私が前に立った時、「休憩は要りますか？」と尋ねたことがあります。その返答は、「いらない!」「あったら集中がなくなるから平気だ!」…ということでした。実際、先生たちの前に立つと、普段の授業以上に緊張するくらいに視線の鋭さも感じますが、それだけ私の話を集中して聞いてもらっている証拠ですね。話す側としてはとても嬉しいです。

それぞれでうまく気持ちや集中を調整しながら、長丁場な研修に参加しているのでしょう。そのテクニックにはただただ感服です。それでは、A bientôt !

